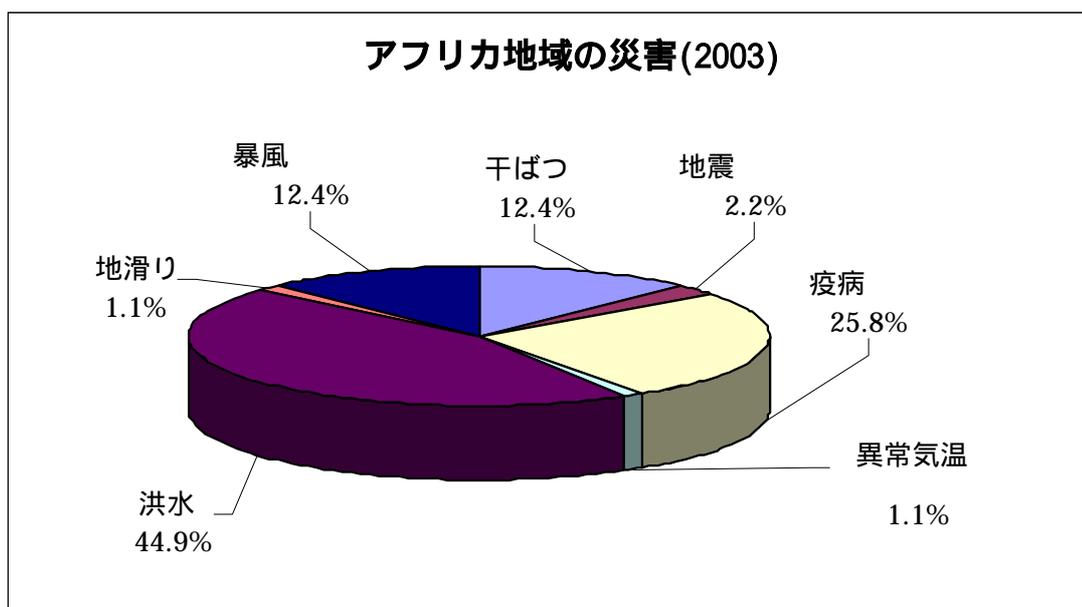


3.2 世界で発生した自然災害の地域特性

3.2.1 アフリカ地域の特徴

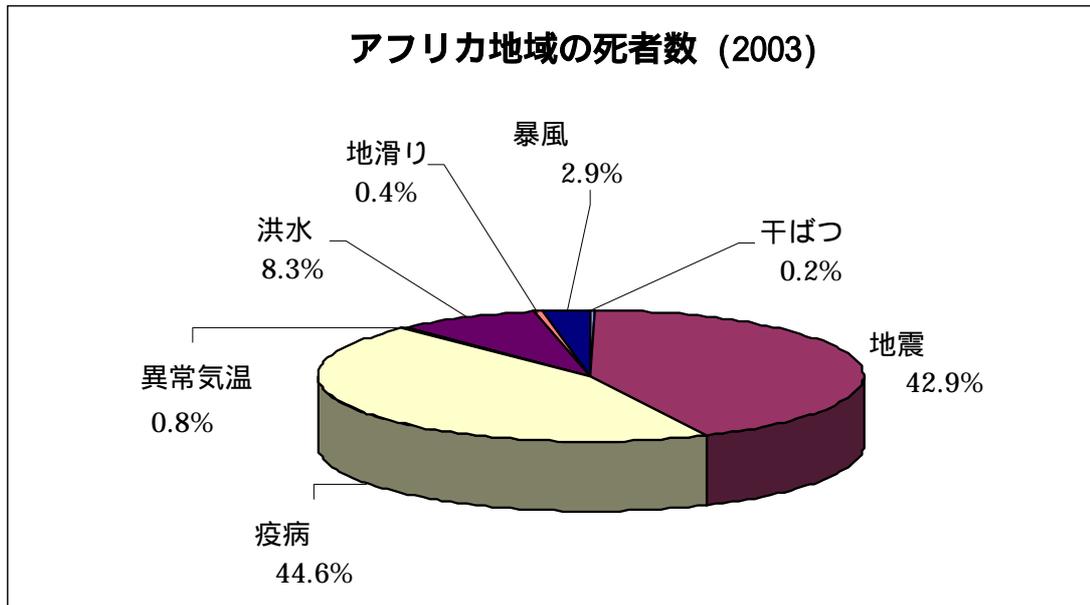
図 27 から明らかなように、アフリカ地域で 2003 年に起こった自然災害の約 96%は、洪水、暴風、疫病、干ばつが占めている。さらに、図 28 によれば、アフリカ地域における人的損失の大部分は、疫病と地震によるもので、死者数全体の 88%を占めている。一方で図 29 によれば、被災者数の殆どは干ばつによるもので、全体の 86%を占めている。また、経済被害を見ても、アルジェリア地震により高い被害額が報告されたことがわかる(図 30)。これらの図から、アフリカ地域は、人的被害の多くが、干ばつ、洪水、地震、疫病からもたらされているといえ、社会経済的に脆弱な、災害の影響を受けやすい地域であることがわかる。

図 27



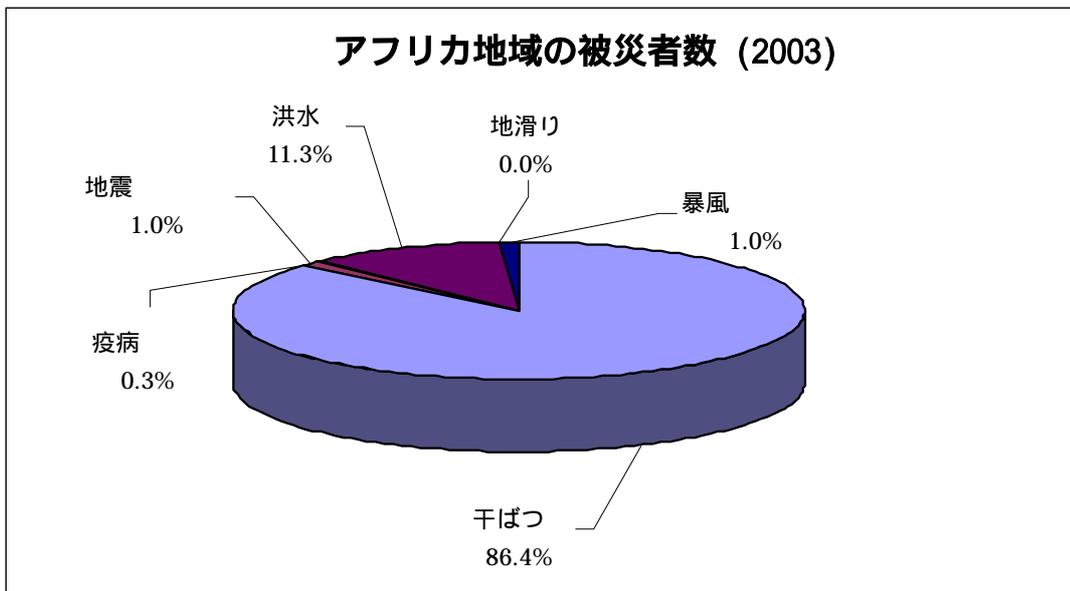
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー)、2003年

図 28



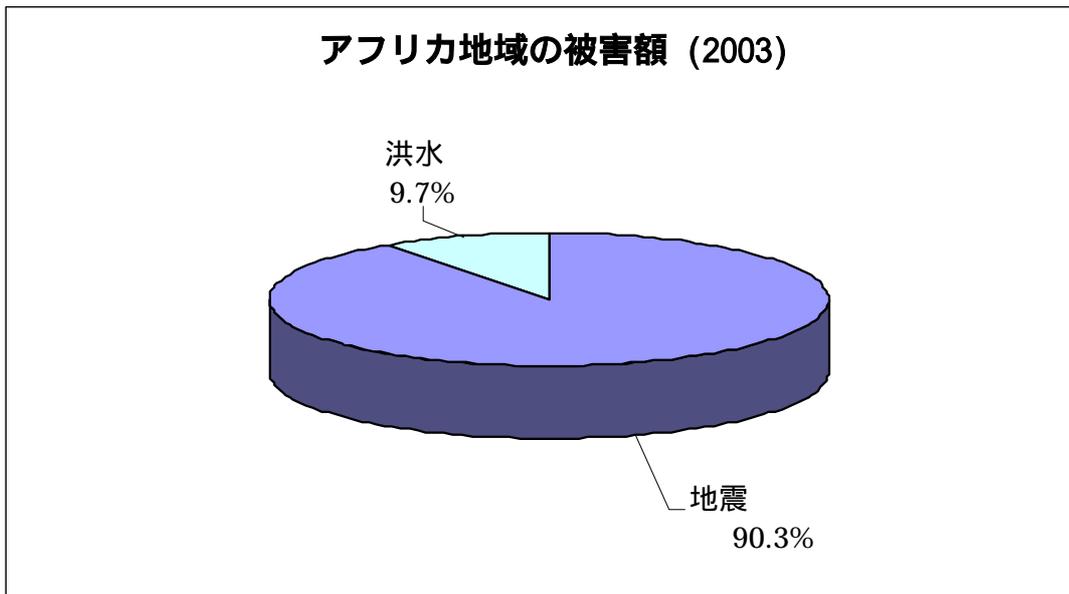
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003年

図 29



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003年

図 30



出典：アジア防災センター、CREDEMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） 2003 年

3.2.2 アメリカ地域の特徴

アメリカ地域（北・南アメリカ諸国）で、2003 年に発生した自然災害を見ると、洪水と暴風で半数以上を占めている。人的被害・損失に目を向けると、死者の 97% 近くは、洪水、暴風、疫病、異常気温、地すべりによるものであった。一方で、88% 近くの人々が、洪水と異常気温による被害を受けた。また、経済被害のほとんどは、ハリケーンと竜巻によるものだった。図 31～34 より明らかなように、2003 年のアメリカ地域は、気象災害による被害を大きく受けた年であったといえる。